

「第2回 羽田空港における地盤改良に関する修補検討委員会」

「第2回 松山空港地盤改良修補有識者委員会」

「第2回 福岡空港地盤改良工事の修補に関する有識者委員会」

合同委員会の議事要旨

番号	項目	説明内容	委員会における主な議論
1	合同委員会に至った経緯	<p>■修補に向けた考え方については、羽田空港、松山空港、福岡空港に共通する議題がありますので、今回、3委員会を合同で開催することになった旨、ご説明しました。</p>	<p>■有識者の方々からは、特段の異論はありませんでした。</p>
2	修補工法候補の選定	<p>■各空港における修補工法候補について、資料に基づき以下の点についてご説明しました。</p> <p>■候補については、作業時間や舗装勾配への影響及び施工期間など運航への配慮、地下埋設物や地盤条件、地下水位など現地地盤の特性、さらに残置物や改良不良地盤など施工不良工事の影響を勘案して、総合的に評価した。</p> <p>■修補工法としては、浸透固化処理工法、静的圧入締固め工法、高圧噴射攪拌工法が考えられる。</p> <p>■今後、現地地盤調査と予備実験を行い、それらの結果を踏まえて各空港ごとに修補工法を決定することとなる。</p>	<p>■有識者の方々からは、修補工法として適用可能性の高い工法について現地地盤調査と予備実験を行い、各空港における修補工法を決定することについて了承をいただきました。</p> <p>■予備実験の結果によっては、再度候補とする修補工法を検討し直すことも考えられるとのご意見がありました。</p>
3	現地地盤調査計画	<p>■今回の修補工事の対象は、中途半端に改良され、かつ残置物の存在する地盤であることから、地盤状態を十分把握するための地盤調査計画を</p>	<p>■有識者の方々からは、地盤調査計画について了承をいただきました。</p>

		<p>各々の空港において策定し、計画内容をご説明しました。</p>	
4	予備実験計画	<p>■当初は修補工事に向けて、地盤調査後に試験施工を行う予定でしたが、スケジュールを短縮するため、予備実験の実施を提案しました。</p> <p>予備実験は、人工的に施工不良地盤を再現し、候補となる修補工法によって適切に再改良がなされるかを確認することを目的とするもので、各工法に対する予備実験計画をご説明しました。</p> <p>■現地における試験施工の前に、地盤調査と並行して予備実験を実施することで可能な限りスケジュールを短縮してまいります。</p>	<p>■有識者の方々からは、予備実験の実施について了承をいただきました。</p> <p>■施工不良地盤の再現は難しいため、浸透固化処理工法での修補では薬液の浸透状況の施工管理が重要である。このため、予備実験においては、薬液の注入量、速度、圧力等の数値管理を工夫する必要があるとのご意見がありました。</p> <p>■浸透固化処理工法においては、杭間法を基本と考えるが、杭芯法による地盤の割裂等も考慮して予備実験を行う必要があるとのご意見がありました。</p>
5	今後のスケジュール	<p>■今後、地盤調査と予備実験を行い、その状況を踏まえつつ、各地方整備局で修補工法を決定することとし、可能な限り早急に修補を進めてまいります旨、ご説明しました。</p>	<p>■有識者の方々からは、特段の異論はありませんでした。</p>